

プログラムの概要

卒後臨床研修の必修化の目的に沿って、将来の専門性にかかわらず、臨床医としての基本的診療能力を身に付けるためのプログラムです。代表的な血液疾患の診療に携わるとともに、抗がん剤治療や感染症治療の基礎診療能力を習得することを目標としています。同種造血幹細胞移植も含め多岐にわたる血液疾患について専門的な研修をすることが可能です。一方で、一般内科あるいはプライマリケアの基礎としても役立つプログラムとなっています。

アピールポイント

山梨県の血液診療の拠点として、白血病、悪性リンパ腫および多発性骨髄腫などの腫瘍性疾患から、免疫性血小板減少症などの自己免疫性疾患まで幅広い血液疾患を対象として、診療を行っています。抗がん剤によるがん化学療法の基礎理論から有害事象への対応方法まで実践的に学ぶことが出来ます。さらには、真菌感染症やウイルス感染症の治療・管理などの感染症への対応についても修得することができます。無菌病棟も新たに開設されており、造血幹細胞移植も年間に30例以上を行なっております。移植医療や細胞治療等の先端治療についても十分な経験をつむことができます。2022年からは、移植認定基準のカテゴリー1を取得しており、あらゆる移植医療への対応が可能となりました。患者さんの病状は多岐にわたるため、他の診療科や医療チームと連携し治療に当たっています。また、大学附属病院(特定機能病院)として、造血幹細胞移植・臨床試験等の治療および研究を積極的に行うとともに、研修指定病院として、研修医・医学部学生の教育、臨床実習も行っています。血液内科は県内の限られた病院にしかないため、患者さんの病状にあわせ、地域医家とも連携しながら診療をしています。

取得可能な専門医資格

日本血液学会
日本造血細胞移植学会
日本臨床腫瘍学会
日本がん治療認定医機構

血液専門医
造血細胞移植認定医
がん薬物療法専門医
がん治療認定医

通院治療センターを中心に、外来化学療法にも多く取り組んでいます。この診療経験に基づいて、日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医を取得することも可能です。

具体的な研修内容

- 入院患者数名を担当し、診療やカルテ記載・検査のオーダーを行います。また、上級医と相談しながら治療方針を決定し、カンファレンスなどでもプレゼンテーションを行います。退院時には、病歴要約を作成します。また、研修医を対象とし、プライマリケアにも有用と思われる血液領域に関するレクチャーも行っています。
- 上級医の指導のもと、研修医が行える手技に関しても積極的に取り組んでもらっています。
- 毎週、新規に骨髄検査を行った全症例について、病理医および骨髄検査臨床検査技師も交えて標本検討会を行います。
- 入院症例については、病棟薬剤師や病棟看護師も交えたカンファレンスを毎週開催しています。
- 研修期間中に担当した症例について、症例検討会として発表を行っていただきます。
- 研修医の全国レベルでの学会発表についても積極的に取り組み、指導を行います。

研修医が筆頭の学会発表の場

- 日本血液学会関東甲信越地方会
(*2018年、2019年と研修医の発表が優秀演題に選ばれています。)
- 日本内科学会関東地方会
- 日本血液学会総会
- 日本臨床腫瘍学会総会

(同種移植体験者を交えての病棟勉強会)

